

第2回 京丹波町地域福祉計画推進委員会 議事概要

日時：令和3年3月25日（木） 午後1時30分～午後2時40分

場所：瑞穂保健福祉センター 2階 集団指導室・健康学習室

出席者：山下委員、片山委員、阪内委員、岡本委員、若松委員、谷山委員、岬副委員長、谷口委員長、栗林委員、藤田委員、武永委員、山本委員（12人）

欠席者：大塚委員、奥井委員、野間委員（3人）

事務局：岡本課長、木南課長、島田補佐、西野補佐、原澤補佐

（株）ぎょうせい：吉川

1. 開会（岡本課長の司会により進行）

2. 開会あいさつ

御多用の中、出席いただき、ありがとうございます。

前回御協議いただきましたアンケートにつきまして、結果が出たようでございますので、皆様から御意見をいただき、実のある計画となるよう御協力をいただきたいと思います。

地域福祉には、人と人とのふれあいが重要であると考えております。コロナ禍のなかで、思い通りにならない部分があり、大きな問題となっています。いち早い収束を望んでおります。

3. 協議事項

（1）京丹波町地域福祉活動計画の概要について

- ・資料「京丹波町地域福祉活動計画の概要について」についての説明。

（説明：社会福祉法人京丹波町社会福祉協議会地域福祉課長から説明）

委員からの質疑、意見はなし。

（2）京丹波町地域福祉計画見直しのためのアンケート調査結果について

- ・資料「京丹波町地域福祉計画見直しのためのアンケート調査報告書」についての説明。

（事務局から説明）

- ・資料「地域福祉計画のうちアンケート調査結果を数値目標とするものの回答状況」についての説明。

（事務局から説明）

委員：ボランティア活動への参加が低調であるという理由の一つに年金の支給開始年齢が65歳になったことで、その年齢までは働かないといけない、ボランティアができないということがあ

ではないかということ、また以前、社会福祉協議会のボランティアの担い手として頑張ってきた主婦の皆さんが介護が必要な年齢層になってきたのではないかと思います。「地域で支える」という言葉は、大変きれいな言葉ですが、全国一律に「地域で支える」とか「ボランティアが支える」という計画でよいのかどうかと考えます。これから年金の支給額も減少すると思います。ある程度の年金があれば、ボランティアに行くこともできる、生活費は何とかなるだろう、ということが出来ますが、かつかつの生活の中で地域で支援ができるのか、ある程度有償への方向性を見出さないと解決ができないのではないかと思います。

また、和知地区における数字の変化は、高齢化が影響していると思います。若い方の人数が減って、高齢者の比率が高まっている状況で、高齢者の実数も減っています。このような現実の中で、相互に支え合っていかなければならない。数値目標を達成するためには、きれいごとだけではうまくいかないのではないかと感じました。

委員長： 難しい問題ですが、事務局いかがでしょうか。

事務局： おっしゃるとおりと感じております。経済的な面もそうですが、気持ちや時間もゆとりがなければ、ボランティアという形で住民同士が支え合うということは難しいのかな、ということをお意見をいただいて改めて感じたところです。有償ボランティアというお話もいただきましたが、例えばシルバー人材センターに会員登録いただき、就業いただくことも一つの活躍の場ではないかと考えますし、ボランティアや福祉に対する思いだけで活動を支えるということは、困難になっているのかなと感じたところです。

委員長： この件に関してでも結構ですし、ほかの件でも結構ですが御意見等ありましたらお願いします。

副委員長： 今、住民主体の取組ということで、ヘルパー資格を持たない方が、介護保険制度の中で対価を得ながら活動されるという取組が広がっています。これは、シルバー人材センターでも実施されていますし、社会福祉協議会でも実施しており、現在数名の方にお世話になっております。また、先ほど御意見がありましたが、高齢化によってボランティアの担い手が減少しているということと年金を始めとする社会情勢の変化、70歳を過ぎても働き続けなければならない状況、夫婦共働きでないと生活できない状況などボランティア活動に取組むための生活のゆとりがないということも大きな要因であると考えています。

有償ボランティアの取組は、社会福祉協議会でも進めておりまして、先ほど申しあげました訪問型A事業と呼ばれる掃除や調理を住民が担っていただく事業や「かがやき」と呼んでおります助け合い活動、こちらは1時間350円を御負担いただき、衣類の衣替えや高いところの掃除など介護保険制度のヘルパーでは担えない部分を御負担をいただきながら助け合っていくという取組を進めているところです。

また、コロナ禍において、ボランティア活動を10年間、20年間と続けていただいた方が、活動ができないことで、もう活動をやめてしまおうかなという気持ちになっていらっしゃるということも聞かせていただいております。サロン活動なども同様です。コロナ禍がボランティア減少の要因となっていることも現状の一つかと考えています。

委員： 相談についてですが、隣近所への相談ということは比較的しやすいと思います。ただ、近所から相談を受けた時にどうやってそのことを解決していくかということを考える必要があると思います。例えば、民生委員さんなど専門的な知識を持った方へ直接相談するのではなく、相談を受

けた近所の方から、民生委員さんや行政へ話をつないでもらうという仕組みづくりをもっと進めていく必要があると思います。相談を受けた方が「それは難しい。」と話しを断ち切ってしまうのではなく、「この人に聞いてみれば。」とか、「この人に話しを聞いてみてあげようか。」というような対応ができれば、隣近所の相談も解決につながりやすくなるのではないのでしょうか。

委員： アンケート結果を見ている中で、46ページの間25「あなたやご家族に対して、ご近所の人からどのような支援をしてほしいと思いますか。」という問いに対して、「特にない」というと回答の比率が大幅に増加しています。また、同じ問いに対して、「安否確認の声かけ」や「災害時の手助け」といった回答の比率が大幅に減少しています。こういう結果になると非常に難しいと思います。

次のページに「災害時の助け合いについて」という項目がありますが、区長会と民生児童委員協議会が協力して、自主防災組織の立ち上げに向けて相談が進められており、地域ごとに自助、共助という大変大事なことについて話を進めている訳ですが、間25のような結果が出れば、福祉計画というものが非常に難しくなると思います。これをどのようにしていくかということが、今後の課題であると考えます。

委員長： 近所からの支援に対して「特にない」という回答の比率の増加ということについて、事務局から何かありますか。

事務局： なぜこういう回答の比率が増加したか、という理由について把握しきれておりません。意識が変わってきているのか、ご近所づきあいそのものが変化してきているのか、見極めきれないところがございます。

事務局： 「特にない」という回答の比率が増加しておりますが、34ページの間19「あなたは、ご近所や地域の方に助けられたり、支えられたと感じたことはありますか。」という問いに対して、「ある」と回答された方の割合は、ほとんど変わっていません。もしかしたら、助け合いの日常化というか、特別なものでなくなっている可能性もあるかもしれません。

委員長： アンケートの取り方で違ってくる部分もあるかもしれませんが、期待した結果とは違ったかもしれません。難しいかもしれませんが、確認をいただければと思います。

ほかに御意見はございませんか。お気づきの点がありましたら、事務局へお伝えいただければと思います。

(3) その他

事務局： 今後の日程ということですが、現状少しスケジュールが後ろ倒しとなっております。関係団体懇談会や住民ワークショップといった部分につきまして、開催方法も検討しながら実施する予定としております。次年度委員の皆様にお世話になりたいと考えております。

関係団体懇談会といたしましては、京丹波町民生児童委員協議会、京丹波町身体障害者福祉会、京丹波町社会福祉協議会やボランティアグループの皆様にご参加いただくことを考えております。また、住民ワークショップでは、地域住民やボランティアグループの皆様などの御協力をいただきたいと思います。

4. 閉会（副委員長あいさつ）

この1年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、色々なことが制限されて我慢の年でありました。一方で、インターネットを利用した研修会や行事の様子配信などIT分野が急速に進化発展してきたことも実感しております。大変便利になった一方で、人と人とのふれあいやつながりの大切さも実感しております。本日協議いただいたアンケート調査結果にもありましたように、地域活動への参加の機会は大幅に減少しております。感染症への不安は大変大きいですが、地域の集いの場、お祭りや伝統行事などの再開を望む声も大きいといことも分かりました。これまでのつながりを絶やすことなく、活動の継続、地域の支え合いの継続が重要と感じていらっしゃると思います。こうした意見を反映した計画の見直し、地域福祉活動計画との連動によって、京丹波町の地域福祉を支えるより良い計画となるよう引き続き検討を進めていければと考えております。

ワクチン接種の準備も進んでいるようですが、接種はもう少し先になりそうです。年度末で何かとお忙しいことと思いますが、御自愛いただきたいと思います。本日は、お疲れ様でした。